

李抗美 潘寿君



# 日语模拟导游教程



旅游教育出版社

03603  
L17

# 日 语

## 模 拟 导 游 教 程

(高年级学生用)

李抗美 编著  
潘寿君

旅游教育出版社

·北 京·

**图书在版编目(CIP)数据**

日语模拟导游教程/李抗美,潘寿君编著。—北京:旅游教育出版社,1996.10

ISBN 7-5637-0681-X

I. 日… I. ①李… ②潘… III. 旅游-日语-口语-教材  
IV. H369.9

中国版本图书馆 CIP 数据核字(96)第 17706 号

D254/04

**日语模拟导游教程**

(高年级学生用)

李抗美 潘寿君 编著

\*

旅游教育出版社出版

通县向阳印刷厂印刷

新华书店经销

\*

开本:850×1168 毫米 1/32 9印张 197千字

1997年1月第1版 1997年1月第1次印刷

印数 1-8000册 定价:12.00元

## 前 言

1992年5月在西安召开全国旅游院校《模拟导游》课程教学大纲研讨会,讨论、制定并通过了全国模拟导游课的教学大纲,确定了教学内容、课程性质、教学任务、教学安排、教学要求以及考试方法等。会议决定本课程为旅游院校必修课,学生学完此课型后可参加全国导游资格考试。

根据会议精神,我们制定了北京第二外国语学院日语专业模拟导游课教学大纲,并编写了这本《日语模拟导游教程》。本教程于1994年6月完成初稿,影印后于同年9月开始在校内正式使用。到目前为止,已用于四届学生(本科三届,大专一届),学生反映良好,达到了预期的目的。在使用过程中,根据形势的变化和发展以及新景点的发现,又做了相应的调整和补充。

本教程共分为18课,以日本游客常去的景点为主,同时涉及到我国的风俗、饮食、文化等。它的使用对象主要是旅游院校日语高年级学生,同时也想对旅行社的日语导游以及其他日语翻译提供一些参考资料。本教程的许多课文本身就是一篇较完整的景点导游词,对一些景点的历史、现状、发展变化做了较详细的介绍。

本教程在课堂上使用时,可利用投影机、幻灯机和录像机等电教设备,也可采用图片、模型、现场模拟等方式,通过各种示范和操作,培养学生综合运用所学语言知识、导游知识和实际导游的能力,使学生在毕业前即能参加全国导游资格考试并能取得导游证,毕业后马上就能上岗工作。

本教程18课全部上完大约要72学时,授课教师可根据实际

情况对课文有所选择,并适当延长或缩短学时。其中有的课文内容较长,也可有所侧重。

在编写过程中,曾参阅有关书籍和资料,并得到日本爱知大学荒川清秀教授、北京第二外国语学院卢友络教授、李翠霞教授的热心指导,顺此一并表示衷心的感谢。

由于我们水平有限,不当之处和错误在所难免,敬请各位同仁和读者给予批评指正。

编者  
1996年6月

## 目 次

第一課	空港での出迎え	( 1 )
第二課	市内の案内(一)	( 8 )
第三課	市内の案内(二)	(15)
第四課	天安門と天安門広場	(22)
第五課	故宮博物院(一)	(38)
第六課	故宮博物院(二)	(53)
第七課	天壇公園	(69)
第八課	雍和宮	(81)
第九課	頤和園	(100)
第十課	万里の長城	(122)
第十一課	明の十三陵	(139)
第十二課	孔子廟	(160)
第十三課	西安・碑林・秦の始皇帝兵馬俑博物館	(180)
第十四課	蘇州	(199)
第十五課	杭州	(217)
第十六課	中華料理(一)	(234)
第十七課	中華料理(二)	(251)
第十八課	中国のお酒・お茶及び祝祭日	(265)

## 第一課 空港での出迎え

大変お待たせいたしました。

〇〇ご一行の皆さま、本日はようこそ北京へおいでくださいました。長い飛行機の旅、大変お疲れさまでございました。本日は、〇〇旅行社をご利用いただきまして、まことにありがとうございます。ここで、改めてご紹介させていただきます。今回ご縁がございまして、北京観光中お供させていただきます私ども——こちらは、バスの運転を勤めます(ドライバーの)〇〇〇さんです。車のナンバーは〇〇〇です。わたしは〇〇旅行社のガイド兼通訳の〇〇〇と申します。入社したばかりで、まだまだ未熟みじやくでございまして、皆さま方が中国滞在中たいざいちゆうずっとお世話をさせていただきますので、どうかよろしくお願い申し上げます。(皆様に楽しい中国旅行をしていただけるよう精一杯せいいつぱいお世話をさせていただきますから、どうぞ、よろしくお願い致します。)

中国には「友あり遠方より来たる、また楽しからずや」という古い言葉がございまして、本日は日本からのお客様をお迎えすることができまして、大変嬉しく思っております。どうか中国観光中は、ご自分の家にいらっしゃるおつもりで、楽しくゆったりとお過ごし下さいませ。

## 一、北京空港

先ほど、皆様方の降り立った空港は「北京新国際空港」で、1975年の10月に着工し、1979年に竣工し、その翌年の1980年の元旦から営業を開始しました。「北京新国際空港」はわが国で近代的な空港の一つです。敷地面積は20万平方メートルあり、ターミナルビルは地上3階、地下1階、建て面積は8万平方メートルで、もとの約6倍あります。でも、昔より遥かに便数が増えておりますので(毎日平均300便あまり、ピーク時には一日420便あまり)、いまの空港ではどうしても裁き切れなくなるのです。それで、1995年から拡張工事が始まりました。24万2千平方メートルのターミナルビル、17万平方メートルの駐車場、47万平方メートルの駐機場及び、16件の付帯施設を建設中で、1999年10月までに完成する予定です。

現在、中国民航は200余りの国際航空会社と航空協力関係を結んでおり、定期便だけで50数ライン、総延長距離数にして20万キロに達しております。国内線も数十ラインあり、定期便は100余りの都市と結び、約40万キロの距離を飛んでおりますが、いずれもこの空港を利用しております。昔の北京空港は1957年にできたものですが、ここから約1キロ離れていて、今は特別機の空港としてのみ使われております。

## 二、エアポートホテル

いよいよ、「北京新国際空港」を後にいたしまして、北京市内へめぐって参ります。車を進めてまいります際、二、三お願いこ



とがございます。走行中は大変危険も伴いますので、窓から顔や手、肘などはお出しになりませんようにご注意くださいませ。また車はご覧いただきますように禁煙となっておりますので、どうぞ、ほんの短い時間でございますが、禁煙にご協力をお願いいたします。

皆さま、バスの中のご気分はいかがでございますか。ご気分の悪くなったお客様がいらっしゃいますでしょうか。どうぞご遠慮なく、私の方までお申しつけくださいませ。またお座席の前にエチケット袋が備えてございますので、小さいゴミなどは、その袋をご利用いただきますようお願いいたします。

皆さま、右手をご覧下さいませ。まもなく右に見える建物は新国際空港の付属施設で、「空港賓館」と呼ばれるエアポートホテルと機内食を加工する「航空食品会社」でございます。左側の道路は中日合弁で作られましたゴルフ場へと通じております。私たちが今走っている所は北京市の東北部にあたる順義県と申しまして、ここから市内までは約20キロで、15分間ぐらいかかります。空港からホテルまでは、大体40分ほどで着きます。それでは、この時間を利用いたしまして、北京についてご案内させていただきます。

### 三、「国門第一路」

まもなく手前に鳥居みたいなきれいな建物が見えますが、そこから「高速道路」に入ります。

今走っている道は「国門第一路」という高速道路で、全長18.75キロ、道幅は34.5メートルで、16カ月間かかって完成しま

した。1993年9月14日から正式に使用を開始しました。「国门第一路」と申しますと、国の門に入るための最初の道ということです。首都空港と北京の市街区を結びつけるこの高速道路は対面通行六車線、完全閉鎖、オール立体交差の道路です。時速は110キロで走りますと、全体を走りきるのに10分足らずです。道路沿いには立体交差橋が8基、河川にまたがる橋が2基、道路を横切る橋が9基架設されています。モニター、料金所、照明、通信、ドライバーの目がくらまないような予防措置、標識、標識ライン、防柵、フェンスなども完備しており、洪水防止、耐震の性能も持っています。また、歩道橋の建設と車道の幅、緊急停車帯の広さも国際基準に達しています。

#### 四、北京市の地図(10区8県)

北京は皆様もご存知のように50万年もの昔から、北京原人が住んでいて、人類発祥の地の一つに数えられております。また北京は中華人民共和国の首都で、中国の政治、経済、文化、交通の中心地です。北京市は10の区(東城、西城、崇文、宣武、朝陽、豊台、海淀、石景山、門頭溝、房山)、8つの県(通県、順義、怀柔、平谷、密雲、昌平、延慶、大興)からなっています。

北京は華北平野の西北部にあり、面積は16808平方キロで、日本の四国とほぼ同じぐらいの大きさです。観光地域としての範囲は行政区画としての北京市をはるかに上回ります。と申しますのは、北は「承德」、南は易県の清代の「西陵」、西は「八達嶺」、東は遵化県の清の「東陵」までがその中に含まれて

いるからです。

北京市の人口は現在約 1251 万人(1996 年 1 月現在)に達していますが、都市部の人口は680 万人(1995 年 12 月現在)余りで、後は農村人口です。また流動人口も330 万人に達しています。(1995 年 5 月現在)北京は国の首都ですから、出張や帰省、それに観光旅行で来ている人だけでも1日に100 万人を超すと言われています。

## 五、北京市の気象図

北京市は温帯大陸季節風気候帯に属し、四季ははっきりしています。

春(65 日間)は四つの季節の中でわりあい短い季節です。春になると気温が急に上がり、風がよく吹き、ほこりが立ちますが、風がなければ、風光明媚の日が続きます。

夏(95 日間)は蒸し暑く、雨がよく降ります。7 月が一番暑く、平均気温は25.2 度に達します。

秋(45 日間)は空が青く澄みわたり、空気もすがすがしいです。北京のゴールデン・シーズンは「天高く、馬肥ゆる」という9 月と10 月で、いわゆる黄金の季節ですが、秋は四つの季節の中で一番短い季節です。

冬(160 日間)は5カ月も続き、最も寒いのは1 月で、平均気温は零下 3.7 度で、最低気温は零下 22.8 度に達することもあります。冬になると北西の風が吹き、乾燥もひどく、従って雪はあまり降りません。

北京の1 年の平均気温は摂氏13 度ですが、年平均降雨量は

506.7ミリで、雨期は7月と8月です。

## 六、北京市の歴史(周口店、薊城など)

北京は長い歴史を持つ古い都です。12世紀ごろからずっと都とされてきました。金から始まって、元、明、清と4代続きました。現代に入ってから、一時南京に移りましたが、新中国成立後、再び首都になっています。

記録に残っているだけでも、3040年(1995年現在)の歴史があります。ただし、発掘された文化遺跡によりますと、およそ50万年以前に、いわゆる「北京原人」(シナントロプス・ペキネンシス)が北京市の南西約50キロにある「周口店」の洞窟に群居し、またおよそ1万8千年前には「山頂洞人」が「周口店」に定住していたことが知られています。

ここから数えれば、北京は50万年という気の遠くなるような長い歴史を持っていることになります。

北京が都として始めて歴史の上に姿を現したのは3040年(西周燕国)ほど前の戦国時代で、燕の国がここに「薊城」を築いた時からです。後に人々はこれを「燕京」と呼ぶようになりました。7世紀の唐の時代になると「幽州」と呼ばれ、10世紀の遼の時代には「南京」と改められ、「燕京」とも呼ばれていました。1125年、金王朝を打ち立て、ジンギスカンがここに首都を置いた時には、「中都」と呼ばれ、豪華な宮殿が造られ、東北の郊外には「大寧宮」と名付る離宮が造られました。これが即ち今の「北海公園」の前身です。1215年、元朝ができると、皇帝のフビライ(ジンギスカンの孫)はここを都として「大都」

と名付けました。この「大都」が即ち今の北京の前身で、これ以後、北京は全国の中心的存在となりました。

1368年、明の初代皇帝となった朱元<sup>しゅげんしやう</sup>璋は都を南京に置き、「大都」を「北平<sup>ぺいびん</sup>」と改称しました。1403年3代目の成祖永<sup>せいそせいらく</sup>楽<sup>てい</sup>帝(永<sup>がんねん</sup>楽元年)が「北平」を首都とすると、その名も「北京」と名付けられました。「北京」という名称はこの時代から始まったのです。

明の時代約280年の間に大規模な宮殿<sup>すうと</sup>が数度にわたり建造され、今の北京の原型となりました。

清朝も17世紀から20世紀にかけて、約270年間北京を首都とし、明の宮殿を保存すると共に、更に多くの公園を修理増築しました。

1911年に辛亥<sup>しんがい</sup>革命が起こり、清朝が亡<sup>ほろ</sup>びましたが、北京は依然として、政治の中心地としての役割をもち続けていました。1927年4月18日に北<sup>ほく</sup>伐<sup>ほつ</sup>により、国民政府が成立すると、再び「北平」と呼ばれるようになりましたが、1949年中華人民共和国の成立と共にまた「北京」と改名し、新中国の首都となりました。

北京の本格的な首都建設は1958年から始まり、「人民大会堂」、「中国革命博物館」、「中国歴史博物館」を始め、「工人体育館」、「北京駅」、「民族飯店」、「民族文化宮」、「放送局」、「全国農業展覽館」、「中国美術館」、「人民英雄記念碑」、「中国人民軍事博物館」など数々の建物が建てられました。1977年には「天安門広場」に「毛主席記念堂」が建設されました。とりわけ、ここ数年来都市の建設はいつそう進んでいます。

## 第二課 市内案内(一)

### 一、<sup>しゆせんきやう</sup>酒仙橋地域の建築群

まもなく左側に見えますいくつかの建物は北京の電子工業が集中する朝陽区の「酒仙橋地区」で、10万人もの住民が住んでいます。多くの電子工業の工場や企業が集まっていますので、「電子の街」とも呼ばれています。1988年に日本の松下電器との合弁で造られたブラウン管工場もここに 있습니다。

### 二、<sup>えんしやう</sup>燕翔ホテルとホリディ・イン

もう少し行きますと、左手側に「燕翔ホテル」と「ホリディ・イン」の立派な建物が見えてきます。実はこの辺りは1980年までは何もない<sup>あ</sup>荒れ<sup>ち</sup>地でした。それが観光事業の発展に伴って、こうしたホテルが<sup>あいつ</sup>相次いで建てられました。「日本人学校」もこの近くに 있습니다。生徒は主として、日本大使館や日本企業の駐在員のお子様です。

### 三、北京国際電信局

<sup>ぜんぽう</sup>前方の立体交差点近くの左側に<sup>うすみどりいろ</sup>薄緑色の高層ビルが見えますが、これは1985年に完成した「北京国際電信局」です。十三階建てで、これが出来てから北京地区の国際電話が自動化され、大変便利になりました。

#### 四、三元橋さんげんきょう

正面しょうめんに見えますのは1984年10月1日に竣工しゅんこうした「三元橋」という立体交差橋です。北京では規模の大きい立体交差の一つで(全部で155基、1996年10月現在)、敷地面積は26ヘクタールもあり、9カ月間かかって完成しました。三元橋のインターでつながる道路は第三環状線かんじょうせん(全長48キロ)の北の部分です。第四環状線は現在工事ちゅう中で、立体交差の博物館と言われる「四元橋」(26基の橋からなっている)はもうできています。国に入る最初の立体交差橋ですから「国門橋」ともいいます。先ほど通ったのがそれです。第四環状線が完成すれば、北京の交通網こうつうもうはさらに整ととのうことになります。

#### 五、中国旅行社ビル

三元橋の西側に建つ民族様式の高層の建物は「中国旅行社ビル」で、世界各地からの華僑ほんこんや香港・マカオ・台湾の同胞どうほうが泊まる高級ホテルとなっています。

#### 六、北京国際見本市会場みほんいち

三元橋から北西側の道路は「北三環東道」と言われ、中国貿易促進委員会の「北京国際見本市会場」はこの左側にあります。1985年に中国で初めて行われた「アジア・太平洋地区国際見本市」の時に造られたこの建物は80年代の北京十大建築の一つです。

## 七、中日友好病院

日本政府が<sup>しゅつし</sup>出資した「中日友好病院」もこの道路の近くにあります。建築面積は9万2千平方メートル、一日に3000人余りの患者を診察することができます。病院にはベッド数三百余りもの回復センター、<sup>かんぽう</sup>漢方と<sup>けつごう</sup>西洋医学とを結合した治療研究所が付設されています。ここでは中国だけでなく、世界各地からの患者も治療を受けることができます。「中日友好病院」は日本政府が中国人民に贈ったプレゼントで、中日両国人民が子子孫孫に至るまで友好を続けていくシンボルとなるでしょう。

## 八、アジア・オリンピックの選手村と競技センター

「中日友好病院」から少し西へ行ったところにあるいくつかの建物は1990年に北京で「第十一回アジア・オリンピック大会」が行われた時に建てられた<sup>せんしゅむら</sup>選手村と競技センターです。もちろん、競技センターは北京では最大規模のスポーツセンターになっています。

## 九、中日青年交流センター、<sup>えんま</sup>燕莎ショッピングセンター (<sup>りふとはんざ</sup>ルフトハンザセンター)、<sup>りょうまが</sup>亮馬河ビル

いま、左手に見えます河は亮馬河で、その両側には「<sup>ゆうぎ</sup>燕莎友誼<sup>しょうじょう</sup>商城(ショッピングセンター)」「亮馬河ビル」、それに、中日両国政府の投資で建築された「中日青年交流センター」があります。「燕莎ショッピングセンター」は1990年にオープンされた中国とドイツとの合弁で、商品、サービスともにグレードの高いデパートです。



## 十、昆侖ホテル

いま、皆さんの目の前に聳<sup>えび</sup>えている黒っぽい茶色の建物は「昆侖ホテル」です。28階建てで、最上階<sup>さいじょうかい</sup>には回転式展望レストランもあります。このレストランが回転するのに要する時間はおよそ1時間です。北京市と郊外の美しい景色を眺めることができます。

## 十一、華都ホテル

その後ろにある建物は中国独特の建築様式を持つ「華都ホテル」です。6階建てで、昔風の優雅<sup>むかしふう ゆうが</sup>な、また設備<sup>ととの</sup>の整った中級程度のホテルです。

## 十二、長城ホテル

左側の遠方<sup>えんぽう</sup>に見えます銀白色<sup>ぎんはくしよく</sup>の建物は「長城ホテル」で、1984年にオープンしました。ホテルには客室が1000以上あり、1000人のも人が同時に食事ができる多目的大ホールがあります。長城ホテルも80年代の北京十大建築の一つで、北京では最もデラックスなホテルです。

## 十三、三里屯大使館区

「長城ホテル」の西側にある異国情緒<sup>いこくじゆうしよ あふ</sup>が溢れる多くの建物は、各国大使館が集中する「三里屯」と呼ばれる所です。この一帯<sup>いったい</sup>には大使館が107、外交官マンションが30余りあります。そのほか、北京駐在の外国商社や国際金融機関の事務所もあります。